

経営比較分析表（令和4年度決算）

宮城県 角田市

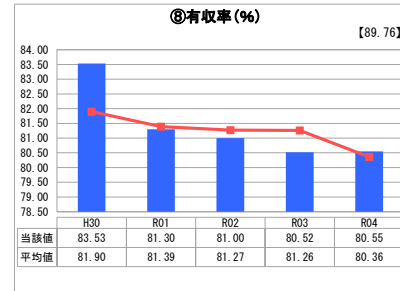
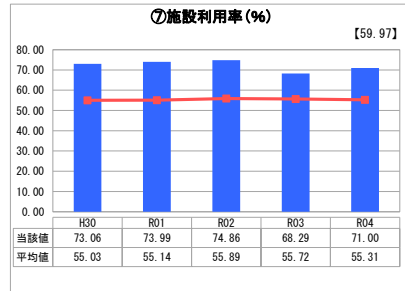
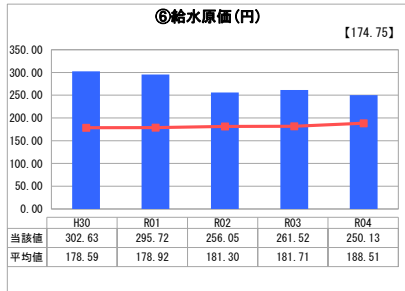
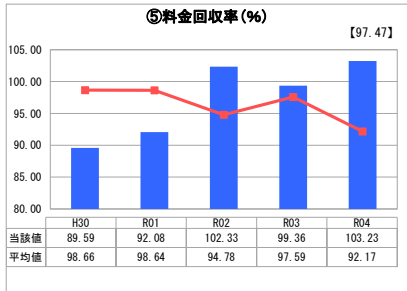
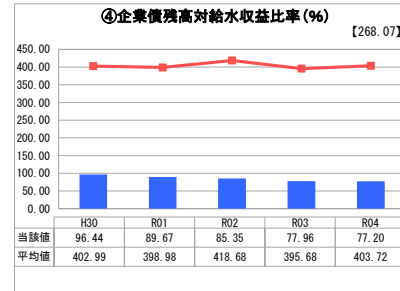
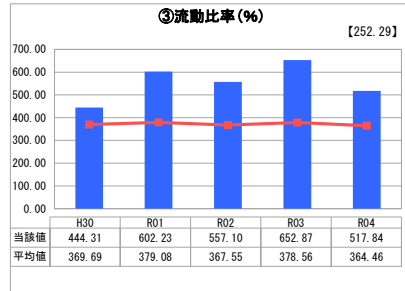
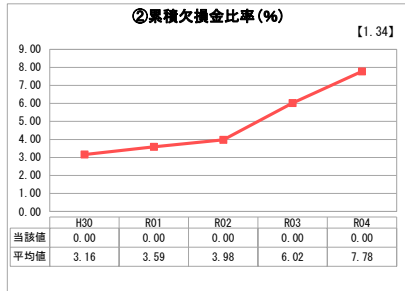
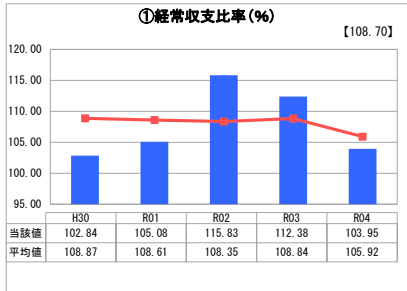
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)	
-	88.51	96.93	4,780	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
27,262	147.53	184.79
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
26,257	147.53	177.98

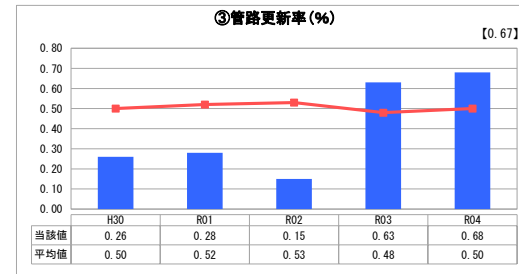
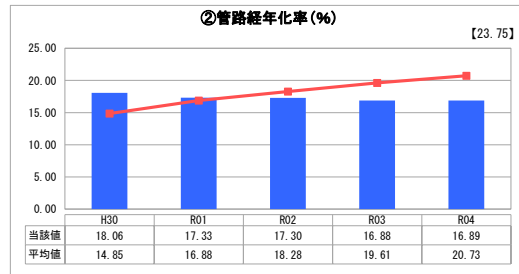
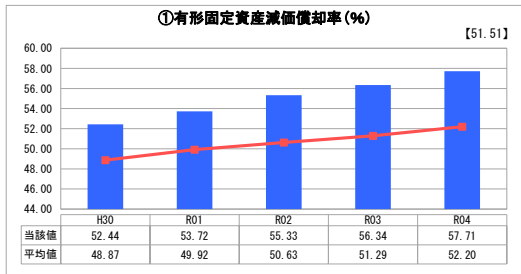
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率：令和4年度は100%を上回ったが、類似団体平均を下回っている。今後、給水人口の減少等による水道料金収入の減少が見込まれる中、継続的に黒字を維持するため、引き続き経費節減や料金収入の確保に努める。

②流動比率：令和4年度は類似団体平均を上回っているが、耐用品の耐用年数を過ぎた老朽配水管の増加に伴いこれまでに管路更新事業を推進する必要があることから、企業債発行による資金確保と将来負担とのバランスに留意する。

③料金回収率：令和4年度は100%を上回ったが、後は水道料金収入の総体的な減少が見込まれることから、適切な料金水準を確保するため、さらなる経費削減を図るとともに受水費水準の変動に合わせた料金水準の適正化を図る。

④給水原価：令和4年度は類似団体平均を上回っているが、地理的条件等による受水費や減価償却費の影響が大きい。今後、施設管理などの効率化策を積極的に進めることで低廉な水の供給ができるよう努める。

⑤有収率：令和4年度は類似団体平均を上回っている。漏水調査の頻度ややり方を見直し早期漏水発見に努めるとともに適切な老朽管更新計画により耐震化を図ることで漏水発生を抑制する。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率：令和4年度は類似団体平均を上回るとともに減価償却率は年々上昇し、老朽化が進んでいる。これは浄水場等施設や配水管等管路の経年化が進んでいることによるものである。老朽配水管は計画的に更新事業を実施しているが全体の管路延長が大きく償却率の低下には至っていない。今後、適正な資金残高を確保しつつ、老朽管更新事業の加速化を図る。

②管路更新率：令和4年度は類似団体平均を上回っているものの、管路の老朽状況から見た適切な更新基準を踏まえると低い水準に留まっている。今後、適正な資金残高を確保しつつ、老朽管更新事業の加速化を図る。

全体総括

令和4年度は経常収支比率が100%を少し上回ったが、今後の管路更新需要等を考慮した資金確保の面から十分とは言えない状況である。

また、有収率は下げ止まったものの依然低水準に留まっていること、減価償却率が上昇していることから、効率的な事業運営を行う上で、老朽管路更新は今後の大きな課題である。

今後給水人口の減少等に伴い給水収益の減少が見込まれることから、将来にわたり安定的な事業運営が可能となるよう、さらなる施設管理等の効率化を進めるとともに、適正な料金水準の確保のため料金改定等を検討している。